

学校教育目標	◎よく考える子 ○進んで働く子		○思いやりのある子 ○体力のある子		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	『のびる かみっ子』～元気があれば 何でもできる～ 「元気な心」「元気な身体」「元気な頭」「元気な気持ち」を育成する学校 【人権意識をもち、自分のよさを理解すると共に、友達のよさも認める子】 【コミュニケーション能力をもち、自分の思いや考えを表現する子】 【主体的に学びに向かい、自分の考えを広げ、深める子】 【常に創意工夫をし、児童の資質や能力を伸ばす教育を展開しようと学び続ける教師】			
前年度までの本校の現状	成果	○児童が毎日学校に楽しく通うことができている。 ○ICT機器（児童の学習用タブレット端末を含む）活用と授業方法の工夫。 ○基礎学力定着につながる指導の充実と学習規律の向上。			課題	○主体的に学ぶ力、考えを広げ・深める力のさらなる育成 ○仮設校舎による運動の場の制限、それに伴う、運動の日常化・習慣化への課題 ○UDLを意識した個に応じた指導の充実			

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○学習の基礎・基本の確実な習得に向けて学力向上委員会を中心とした組織的な取組の実施・充実と授業改善の推進	・校内研究を軸とした学習指導の流れの確立 ・校内補習「のびのびタイム」の実施 ・放課後補習教室（EDOスク）の有効活用	・年間3回の授業研究での授業実践 ・月1回、のびのびタイムの実施 ・児童アンケートにおいて、80%以上が主体的に学習に取り組んでいると回答 ・区学力調査、学習診断シートでの各学年の正答率70%以上	80%		B	○全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均を上回り、都平均に大きく近づくことができた。 ○算数におけるアンケートでは、80%の児童が意欲をもって取り組んでいるという回答であった。 ●区定年度調査では、平均正答率が66.5%という結果であった。	B	・子供たちが意欲をもって楽しく学んでいることが大切だと思う。これからも楽しさを大事にしながら学力の向上にもつなげてほしい。 ・学力の結果としても高まっていることは喜ばしいことだと思う。					
	○ICTを活用した更なる学習の推進	・タブレット端末を活用した個に応じた学習の実施 ・メディアリテラシー教育の実施	・毎週、ミライシード（ドリルパーク）を使った個に応じた学習の実施 ・年3回、ICT支援員による校内研修の実施	80%		B	○ICT支援員と連携し、ミライシードの活用を図ることができた。 ●メディアリテラシー（SNS含む）に関する指導の進め方に課題がある。	B	・先生方が工夫しながら授業をされている。ICT機器も上手に活用して、一人一人の意欲を高めていってほしい。					
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートを活用した探究的な学習活動の実施 ・図書館巡回職員、図書ボランティアとの連携	・年1回、読書活動を通じた学年ごとの探究的な学習の実施 ・年8回の読み聞かせ活動の実施	75%		B	○よむYomuワークシートの実践を進めることができた。 ○図書館司書、ボランティアとの連携を図ることができた。 ●探究的な学習の取組に課題がある。	B	・図書ボランティアさんの協力もあって、図書室の環境が良いことが分かる。進んで本を読む子供たちを引き続き増やしていってほしい。					
体力向上	○運動意欲の向上、体力や健康に関心をもち、高めようとする態度の育成	・ICTを活用した、めあて学習の実施 ・外部講師による運動の紹介、民間水泳施設による水泳指導の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が、運動への関心に対して肯定的な回答	80%		B	○民間施設との連携を図りながら水泳指導を行い、児童の意欲的な取組につなげることができた。 ●学年ごとICTを活用した取組の差が出てしまった。	B	・元気に体を動かす子供たちでいてほしい。学校は改築中で十分な環境ではないが、様々な方法を工夫して運動の機会を増やしてくれていることが有難い。					
	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	・なわ跳びウィーク、運動遊びでの運動時間の確保 ・体力カルテによる現状把握と目標の設定、動画の視聴	・80%以上の児童が校内なわ跳びコンテストに参加 ・タブレット端末による数値の入力、ポイント動画の視聴	65%		B	○なわ跳びの取組を全校で進めることができた。 ●体力カルテの十分な活用ができていなかった。	B	・身近な運動であるなわ跳びを積極的に取り入れていることは素晴らしい。運動好きな子供たちであってほしい。					
	○仮設校舎による運動環境の制限がある中での運動の習慣化の育成	・フレイルームの活用 ・河川敷体育、その他区内施設の活用	・児童アンケートにおいて、80%以上が、毎日体を動かして遊んでいる、運動していると回答	90%		A	○校庭拡張により、運動の機会を確保するとともに、校内の運動遊びの体制づくりを組織的に行うことができた。	A	・校庭で元気に遊ぶ姿があるのは大変ありがたい。地域としても子供たちの遊び場や運動の機会の確保ができるよう応援したい。					
表現・共生社会の推進 教育に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室環境のユニバーサルデザイン化 ・巡回指導教員、特別支援専門員、日本語指導教員との連携	・毎週学級担任と巡回指導教員との振り返りの実施 ・毎月特別支援コーディネーターと専門員の打ち合わせの実施	80%		B	○学級担任と巡回指導教員との連携を図ることができた。 ●全校体制のユニバーサルデザインへの理解と取組に差が出てしまった。	B	・様々な子供たちがいる中で、工夫をされていることが分かる。これからも連携の体制をしっかりとつくていってほしい。					
	○エンカレッジルーム（特別支援教室）の活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校公開や保護者会においてエンカレッジルームの紹介の実施。	90%		A	○学校公開の中で、多くの保護者にエンカレッジルームの紹介し、特別支援教室の理解を図ることができた。	A	・保護者が知ることはとても大切なことであるので、継続的な発信をしてほしい。					
	○副籍交流による連携の充実、交流の実施	・年間計画に基づいた交流	・学期ごと手紙等での交流の実施 ・年2回以上の交流会の開催	85%		A	○学校公開や授業内での交流を進めることができた。	A	・多くの交流の機会があることはとても大切であると思う。					
不登校・いじめ対応の充実	○自己有用感・多様性の尊重を大切にした魅力ある学校づくりの推進	・特別活動、道徳及び他教科と関連させた指導	・児童アンケートにおいて、80%以上が、学校生活・学習は楽しいと回答	80%		B	○全国学力・学習状況調査では、86%の児童が、学校は楽しいと回答することができた。 ●道徳指導、学級活動のさらなる充実が必要である。	A	・「学校が楽しい」と思えることは、何よりも大切であると思う。先生方が日々、子供たちと向き合っていることに感謝したい。					
	○OL-Gateの活用	・毎週のL-Gateの実施、分析、今後の指導の改善	・児童アンケートにおいて、80%以上が、学級の居心地がよいと回答	80%		B	○OL-Gateの回答を担当が確認し、指導に生かすことができた。 ●学年によって取組の差が出てしまった。	B	・子供たちの気持ちを把握する手段として活用できていることは、大切だと思う。					
	○教育相談の強化	・ふれあい月間の実施 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの積極的な連携 ・5年生へのSC面談の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が、相談しやすい環境であると回答	85%		B	○OSC、SSWと連携し、児童の状況に合わせて支援を行うことができた。 ●思いやりをもって、よりよく他者とかわる指導の充実を図る必要がある。	B	・いじめや不登校の問題については、学校全体でしっかりと取り組んでいってほしい。専門家と協力をしながら教育活動を進めていくことが大切であると思う。					
地域社会に実現かれた	○学校ホームページ、連絡メールによる学校生活の様子、配付文書の配信・充実	・学校日記による学校生活の様子の配信 ・ホームページの整理、各項目の更新 ・連絡メールによる文書の配信	・毎週の学校日記の配信 ・毎月の学校だより、学年だよりの配信	95%		A	○学校ホームページ、連絡メール等において学校の様子や状況を伝えることができた。 ○ホームページの更新を進めることができた。	A	・学校だよりでは、学校の様子を丁寧に伝えていただいている。学校ホームページや連絡メールも上手に活用していき、教育活動に対する理解がさらに深まっていくとよい。					
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会での意見交換 ・保護者アンケートによる教育活動の評価	・年3回の学校評議員会の開催 ・年1回保護者アンケートの実施	85%		B	○学校評議員会において意見交換を進めることができた。 ●昨年度のアンケート結果の考察を適切に進めていく。	B	・限られた回数の中で、しっかりと情報共有、意見交換等ができている。引き続き連携を強化していきたい。					
	○地域の教育力を生かした活動の充実	・学校応援団、見守り隊の活動の実施 ・七夕集会での学校評議員による講話	・定期的な登下校の見守り、公園移動の際の見守り ・7月、七夕集会の実施 ・年1回の地域教育懇談会の開催	80%		B	○予定通り集会や懇談会を実施することができた。 ●地域人材のさらなる活用を進めていく。	B	・地域の力の活用、地域人材をこれからも充実させていき、子供たちの成長につなげていきたい。何かあれば遠慮なく言ってほしい。					
教育の特色ある展開	○道徳教育の充実	・全学年共通の指導の重点項目を明確にした授業の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が自分も相手も大切にできたと回答	80%		B	○学年の実態に応じた道徳指導を行うことができた。 ●指導の重点について共通理解を徹底する必要がある。	B	・一人一人の心の教育を大切にしながら、これからもみんなが互いを認め合える学校となるようお願いしたい。					
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成、計画的なOJTの実施	・全教員年に1回の教員間の授業公開を実施 ・月に1回、OJT研修の開催	70%		B	○実技研修を開催し、授業改善に生かすことができた。 ●各学級で授業を公開し、教員一人一人の授業力を高める必要がある。	B	・子供たちのために、多忙な中でも研修を重ねることがとても素晴らしい。計画的に取り組んでいってほしい。					
	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の平均月残業時間を45時間以下	65%		B	○教員一人一人のタイムマネジメント意識が高まっている。 ●平均残業時間45時間を超える月が出てしまった。	B	・体が第一である。無理をせずに、健康に気を付けて職務に向かえるとよい。					